

重点項目	学習活動（学習指導）	
重点課題	生徒の実態に即した適切な受講登録とわかる授業の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。 ・様々な理由から、転入学生や編入学生が在籍している。 ・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。 ・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。 ・校内研修を実施しているが、生徒へのフィードバックに課題が残る。 	
達成目標	講座出席率と単位修得率	
	講座出席率	80%以上
単位修得率	80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。 ・多様な生徒のニーズに応じた、弾力的な教育課程の編成に努める。 ・HRや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。 ・生徒、教員（担任・授業担当者）、保護者との連携をとっていく。 ・I C T機器の推進を図り、タブレットやデジタル教科書等を活用した教材開発に努める。 ・校内研修を充実させ、授業改善に生かせるように工夫に努める。 	
達成度	講座出席率	84.3%(昨年度 83.6%)
	単位修得率	86.4%(昨年度 80.2%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業や習熟度別授業の中に中学校の振り返りを取り入れながら、生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を行った。 ・年間指導計画の中で学習のねらいと評価規準を教員と生徒の間で共有し、生徒が主体的に学べるように努めた。 ・カリキュラムポリシーに基づき、各年次(夜間)や各教科との連携を図りながら、柔軟な教育課程の編成に取り組んだ。 ・時間割作成の際には生徒一人に複数の教員(年次、教科、教務)が対応し、生徒が無理のない受講登録をするように支援した。 ・技術支援員による校内研修を行い、タブレット等のI C T機器の推進に取り組んだ。 ・互見授業を行ったりデジタル教科書を活用したりすることで授業改善に努め、生徒の学習理解が深まるように努めた。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、丁寧な関わりや指導により出席率を上げてほしい。 ・不登校生徒への対応が、退学者の減少に繋がっている。 ・体験学習を通じて生徒を育てて欲しい。 ・生徒を褒め、自己肯定感を高めて欲しい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様にI C T機器の活用を推進し、タブレットやデジタル教科書を活用した指導体制を整備していく。 ・校内外の研修を活用して指導方法等の改善を図り、生徒の自己肯定感が高まるような支援をしていく。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

重点項目	学習活動（福祉教養科）
重点課題	家庭・福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技術の習得、及び思いやりの心の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生から実習・体験、専門家による講義等を計画的に取り入れ、家庭・福祉に対する興味・関心を高めながら、福祉マインド（思いやりの心・自主性・協調性）を育成している。 ・介護職員初任者研修の対象は、来年度から3年生となるため今年度の開講はない。 ・昨年度卒業後に福祉系の進学・就職をした生徒は2名（4名中）であった。
達成目標	①「学校生活、家庭・福祉についての自己評価表」で各項目が向上した生徒の割合（現状維持を含める） ②里孫活動への参加率（校内外活動を含む） ①80%以上 ②80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・前期と後期に「学校生活、家庭・福祉についての自己評価表」を用いた調査を実施する。 ・基本的生活を確立した学校生活を送るために定期的に担任との面談を行う。生徒の指導に関して、年次と共通理解を図り保護者との連携を強化する。 ・生徒の個々の福祉マインド（思いやりの心、自主性、協調性）の育成を図るために、授業をはじめ体験学習や里孫等のボランティア活動等を積極的に行う中で知識や技能、態度を身につけ、専門性を深める。自らが家庭や福祉を学ぶ意義について考える機会を設ける。 ・1年次生から介護職員初任者研修の資格取得に向けた働きかけを行う。
達成度	①75.0% ②校外87.5%、校内100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活、家庭・福祉についての自己評価表」を実施するとともに、その結果を活用して、定期的に担任との面談を行った。 ・家庭・福祉に対する興味・関心の向上や思いやりの心の育成に向けて、里孫活動（新川ヴィーラの里親さんへの手紙や年賀状、ポケットティッシュカバーづくりなど）や、わかくさ作業所の利用者さんとの交流活動（新川キャンパスフェスティバルでの模擬店の実施）を行った。 ・家庭・福祉に対する興味・関心の向上、基本的知識・技術の習得に向けて、家庭及び福祉の授業において、実習・体験や、専門家による講義等を計画的に取り入れて実施した。 ・生徒が、福祉教養科の取り組みを紹介するパネルを作成、新川キャンパスフェスティバル等で展示し、福祉教養科を校内外にアピールした。 ・介護職員初任者研修の資格取得に向けた働きかけを行った。 ・令和6年度から教育課程の変更に伴い、家庭・福祉の科目を新たに開講するため、その授業内容について検討を行っている。
評 価	①B ②A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、コロナの影響で生徒と福祉施設利用者との直接交流ができないが、タブレットを活用してオンラインでの交流活動を是非検討してほしい。 ・来年度実施する介護職員初任者研修について、新川ヴィーラとして協力できることがあれば、是非協力していきたい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・福祉への興味・関心を向上させ、家庭・福祉に関する知識・技術の習得を図るとともに、福祉教養科での学びの達成感や充実感を高めることを目指して指導・支援を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	学校生活（保健指導）	
重点課題	委員会活動の活性化による生徒の環境整備・健康意識の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保健厚生委員会では、キャンパスフェスティバルや学校保健委員会等の活動を通して、全校生徒に向けて展示や調査発表等で健康情報を発信したり、環境整備を呼びかけたりする機会をつくっている。 ・生徒が提案する本校生徒の健康問題や学校生活の問題点への取り組みは、当事者である生徒の関心が高く共感を得やすいため、活動の波及効果は期待できる。 ・環境整備の取り組みは、地域環境美化活動や校内美化週間を実施する中で、ポスター掲示で啓発を図ったりしているものの、その期間限定の活動であり長期的な意識付けには至っていない。 ・全校生徒の環境整備や健康意識の向上を図るため、保健厚生委員会の活動がさらに活性化するようにサポートする必要がある。 	
達成目標	アンケート調査にて、全校生徒の環境整備・健康への意識が向上する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の委員長・副委員長・年次代表が主体となり、生徒から出された意見を基に年間のテーマや活動計画を立て、生徒視点で活動するよう支援する。 ・校内美化週間をはじめ、日々の清掃活動を通して、生徒の校内環境を改善・維持する習慣（5S：整理、整頓、清掃、清潔、習慣）の意識づけを支援する。 ・キャンパスフェスティバルや学校保健委員会ですべての生徒に向け、調査・活動した内容を発信する場を設定する。 ・「ほけんだより」の記事や掲示物を作成させる機会を設け、生徒視点の保健情報をST等で発信する。 ・保健厚生委員会の発表・活動から学んだことや意識の変化などについて全校生徒にアンケート調査を行う。 	
達成度	アンケート調査等により、全校生徒の健康への意識は向上している。環境整備についてはゴミの分別や5S習慣の認知がまだ十分でない。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほけんだより」の記事や校内掲示物で、準備運動講座や歯磨き講座など、生徒目線の保健情報を発信した。 ・昨年度に引き続き、保健厚生委員会でゴミ分別チェックを行った。 ・校内環境を改善・維持する習慣（5S：整理、整頓、清掃、清潔、習慣）の意識づけを、校内美化週間にて校内掲示や清掃ロッカーチェックを通して行った。 ・キャンパスフェスティバルで、5S活動の成果を展示発表した。また、生徒の発案により、清掃用具の使い方講座や手洗い講座を行った。 ・学校保健委員会で「心肺蘇生」の体験講座を実施し、保健厚生委員がアンケート結果の発表や心肺蘇生の方法を説明・指導した。 	
評 価	B	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒主体の委員会活動を推進し、全校生徒の環境整備・健康意識を高めつつ、生徒の主体性や達成感を育ててほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいゴミ分別には、基本的な知識に加え、各自治体のルールも理解する必要がある。今年度の分別表掲示は、一定の効果が見られたものの、さらなる改善が必要である。今後は、保健厚生委員会による積極的な啓発活動を実施することで、生徒一人ひとりの意識を高め、正しい分別を習慣化していく。 ・「5S」の定着には、生徒目線の情報発信と具体的な活動が重要で、保健厚生委員会を中心に、生徒自身が主体的に取り組める環境を整備していく。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和5年度 新川みどり野高等学校アクションプラン —4—		
重点目標	進路支援（進路指導）	
重点課題	生徒が主体的にキャリア教育のステップアップを目指しながら、目標に向かって実践できる進路指導（支援）体制の構築	
現状	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育のステップアップのための具体的な方策が、学校全体での周知という面で不十分である。そのため、生徒はキャリア教育（進路実現、日頃の学校生活、各種学校行事等を含む）のステップアップとしての、自らの課題や目標が適切ではなかったり、目標設定に対する意識が低かったりする場合がある。 	
達成目標	生徒が的確に自己理解し、自らの課題について主体的に克服しながら進路実現を図ろうとする意欲を育むことができるような支援体制の充実や改善を行う。	
方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分のステップアップの状況を把握する機会を定期的に設ける。 自らの課題について主体的に克服できるよう、関係する分掌、年次、スクールカウンセラー等と連携しながら学校全体で取り組む。 学期や行事毎にキャリアパスポートの作成に取り組むことで、生徒が主体的に自己の課題を克服するために、的確な目標を定められるようにする。 	
達成度	（今後も継続して実施していくための方策や、既存のキャリアパスポートとの連携を行うこと等で効率化を図る、等の課題を含め）50%程度	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 「スクール・ポリシー」、「自己理解等」、「ライフスキル」の3つ要素（各5項目、全15項目）のチェックリスト（「みどり野メソッド」）を、1年次生と2年次生を対象に実施した。7月に各クラスで実施し、集計では「学年が進むにつれて、アルバイトやボランティア等に参加する生徒が増えている。意欲的に学習が取り組めていない生徒が各年次に一定数おり、学年が進むにつれて増加している。基本的な生活習慣が確立されていない生徒が各年次に一定数おり、学年が進んでも改善されていない。」など、今後の学校全体としての課題も見えた。 	
評価	B	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒一人一人の実態を考慮しながら、生徒自身が納得できる進路選択が出来るよう支援を続けて欲しい。 富山県は高校生の就職率が高い一方、離職率が高いことも問題であると認識している。離職に至らないような指導をしてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートや、みどり野メソッドのICT化などを検討しながら、効率化を図ると共に、学年が進んでも改善されないスキルの向上を目指し、関係する分掌等との連携を深める必要がある。 今後も無理のない範囲で、全校生徒に就業体験を勧めていく。就労体験先の事業所からの「評価表」を有効に活用し、社会人として、あいさつ等のコミュニケーションや労働に対応できる基礎体力づくりも意識しながら学校生活の充実を図りたい。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	特別活動
重点課題	豊かな人間関係を構築する能力とコミュニケーション能力の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校生の特徴として、生徒会活動や学校行事（スポーツフェスティバルや新川キャンパスフェスティバルなど）において、他の生徒と協働しながら、意欲的に活動できる生徒が一定数いる反面、与えられた指示には取り組むことはできるが、コミュニケーション能力が乏しく、基本的な生活習慣が確立できていないことで欠席してしまう生徒も多い。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、部活動を通して、「主体的に様々な活動に参加する、互いのよさを生かす関係をつくり支え合って活動する、他者を大切にしながらコミュニケーション能力を高める」という意欲的な活動参加の機会を増やす。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動では、話し合いや他者と協働しながら活動する経験を通して、ホームルームの一員としての役割を自覚させ、協調性やコミュニケーション能力を身につけさせる。 生徒会活動や委員会活動に進んで参加する意識を高めさせるとともに、学校生活をよくするための課題を見出し、話し合い、合意形成を図る経験を増やせるように取り組む。 学校行事では、生徒会や委員会が主体となり、「生徒会だより、広報委員会だより」を発行して、主な学校行事の活動の内容や意義を知らせることで行事への参加率を高める。また、事後アンケートを行い、自らの活動の振り返りを行わせる。
達成度	各学校行事の生徒事後アンケートの結果から、多くの生徒が意欲的、主体的に活動に取り組もうとしていることが分かった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> スポーツフェスティバルでは、目標やスローガンを意識しながら、準備、活動をするように促した。また、生徒会執行部が考案した競技種目を生徒が主体となって実施した。準備や後片付け、係活動や競技に意欲的に活動し、自己有用感を高めることができた生徒が多数いることが、事後アンケートの結果から分かった。 新川キャンパスフェスティバルでは、年次や部活動、委員会と連携を図りながら、生徒全員に何らかの役割を与えた。生徒が前面に出て活動できるよう意識しながら指導、支援した。夏休み、休み時間や放課後などの時間を捻出して、各企画の準備活動を積極的に行う生徒が多数あった。 コミュニケーション能力を鍛える機会、地域社会の方々と関わりを持つ機会となるボランティア活動への積極的な参加を促した。昨年よりも参加生徒数が増えた。
評 価	B：ほぼ達成した
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> スポーツフェスティバルで、生き生きと活動する生徒の姿が印象的であった。生徒達は高校生活をエンジョイしているのだと感じた。 不登校を経験していたり、特別な配慮が必要だったりする生徒が多く在籍する中、充実した学校生活を送っている生徒が多いので、これからも、体験を通して生きる力を身につけられるような活動を増やして欲しい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を通して、①活動への主体的な参加、②協働して活動する意識の向上、③コミュニケーション能力の獲得などに向け、生徒の実態把握、指導のための共通理解、適切な指導方法、生徒との適切な関わり方などについて考察する必要がある。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)